

第28号  
2016.2

# あきた 留学生交流



「第三の故郷を見つける農家民泊2015」に参加した留学生、日本人学生、受入農家のみなさん

秋田地域留学生等交流推進会議  
Akita Inter-regional Council for Promotion of Foreign Student Exchange

# あきた 留学生交流

第28号  
2016.2

表紙題字  
秋田大学教育文化学部  
長 沼 雅 彦 名誉教授

## C O N T E N T S

### 1 巻頭言

ノースアジア大学 理事長・学長 小泉 健

構成員大学からの寄稿

### 2 JICAプロジェクトを通じた国際交流

秋田工業高等専門学校 国際交流室長  
西野 智路

### 留学生からのメッセージ

#### 3 秋田での1年間

ノースアジア大学交換留学生  
金 載中 (韓国)

#### 4 日本で人生の道を開きましょう

秋田県立大学  
システム科学技術研究科経営システム工学専攻修士2年  
黄 菁言 (中国)

#### 5 留学の重要性

国際教養大学短期留学生  
ケンドラ・ディヴァインプリングル (アメリカ)

#### 6 私の夢は終わりません

秋田工業高等専門学校物質工学科5年  
チンバト エンフザヤ (モンゴル)

#### 7 あっという間の留学生活

秋田大学教育文化学部特別聴講学生  
ニクラエ クリステリアナ マリア (ルーマニア)

### 8 留学体験寄稿～秋田から世界へ～

#### 「分からない」と言える勇氣

国際教養大学国際教養学部4年  
熊谷 ひかり (日本)

### 9 卒業予定者からのメッセージ

#### 愛に包まれた留学生活

秋田大学工学資源学部電気電子4年  
季 歆 (中国)

### 10 留学生交流事業

#### 第三の故郷を見つける農家民泊2015

### 国際交流団体等の活動紹介

#### 11 留学生との草の根国際交流活動

(公財)秋田県国際交流協会 (AIA)

#### 12 Think globally, act locally

～今こそ互いがパートナーに～  
秋田県国際交流をすすめる女性の会：わびえ

#### 13 平和を祈りながら

秋田ユネスコ協会

#### 14 毎年留学生や技術研修員等との 様々な交流事業を実施

秋田県日中友好協会・県日中女性委員会・各地区日中友好協会

#### 15 県内居住者との交流と相互理解

秋田モンゴル友好協会

#### 16 草の根の異文化交流の輪

国際交流オープンクラス

### 17 留学生交流事業の紹介

秋田工業高等専門学校、秋田県立大学、ノースアジア大学、  
国際教養大学、秋田大学

#### 19 平成27年度国際交流事業の実施状況

### 24 留学生関係資料

秋田県内留学生等の受入れの推移 (各年10月1日現在)  
住居形態別留学生数 (平成27年10月1日現在)  
秋田県内留学生等の出身国・地域別在籍状況  
(平成27年10月1日現在)

### 26 平成27年度秋田地域留学生等交流推進会議

秋田地域留学生等交流推進会議議事要旨  
秋田地域留学生等交流推進会議要項  
秋田地域留学生等交流推進会議の事業費に関する申し合わせ  
秋田地域留学生等交流推進会議構成員名簿  
秋田地域留学生等交流推進会議運営による資金貸与制度

### 裏表紙

推進会議へのご意見や情報提供について

# 巻頭言



ノースアジア大学

理事長・学長 小泉 健

秋田県に来られた人は、皆さん様に驚くのですが、秋田ほど自然に恵まれた地域はありません。しかも、秋田県はとても広く、1県で東京、神奈川、茨城、埼玉を合わせたくらいの面積があるんです。

今、「地球の砂漠化」ということがいわれています。毎年、6万平方キロメートルを超える規模で、砂漠化が進んでいます。面積にすれば、日本の青森、秋田、岩手、山形、宮城、福島の6県を合わせたくらいの地域が砂漠になって、森林が失われているんですね。

私は仕事でヨーロッパに行くこともありますが、たとえば、フランスで真水がなくなって、ブドウ畑の栽培ができなくなり、何十平方メートルもの耕作地が放棄されたという記事を目にしました。世界では、本当に真水がなくなっているんですね。もともと、真水は、地球上にある水のたった2.5パーセントしかないんです。たとえば、綿花の国、パキスタンでは、真水がないと綿花を栽培できません。ところが、インドから流れてくるインダス川の流域に水が不足するようになって、パキスタンでは綿花の栽培が困難になっているそうです。

ドナウ川は、皆さんもご承知のように、ドイツやオーストリア、ハンガリーなど10カ国を通過して黒海に流れています。生活用水や工業用水、農業用水として使って、その排水を次の国に流すこととなります。それを10回も繰り返しているんです。

秋田に来た方に、日本の河川は1か所も他国

を通らないんですよ、と言うと皆さん驚きますけれども、それどころか、秋田県では、河川が他の県を一切通らないで海に流れているんです。大河として有名な雄物川も、大仙山を源として、秋田県内を通り、そのまま豊かな水を日本海に送っているんです。

上空から秋田県を見てみると分かりますが、そのほとんどが森林に覆われた美しい緑の地域です。スモッグや大気汚染などは一切ありません。ご承知のように、中近東やアフリカでは砂漠化が激しく、半年も雨が降らない地域もありますね。生えている草はほんの少いで、私たちの生命を育んでいる水に渴望している地域です。ですから、ぜひ、この緑に覆われた、清水の大河の美しさを味わってみたいと思います。そして、皆さんが学校を出て母国に戻るときには、ぜひこの美しい緑の国、秋田を思い出してください。あなた方が将来、また秋田県に来て永住することも希望し、期待をしています。

秋田県の人たちはシャイで、なかなか打ち解けにくいということをいう人がいますが、外国の人に対する思いやりは熱く、本当の意味の友人になれると思います。紛争の激しい地域や厳しい歴史の地域の人たちは、損得を考えたり、人を信用しないというようなことになりがちですが、秋田県ではそういうことが全くなく、心からあなた方をもてなすはずですよ。

美しき秋田、スノーカントリー。この国がぜひあなた方の第二の故郷となることを望んでいます。

# JICAプロジェクトを通じた国際交流

(秋田工業高等専門学校 国際交流室長 西野 智路)

秋田工業高等専門学校を含む高等専門学校（以下、高専）は、戦後の高度経済成長を支える即戦力となる技術者を多く輩出したとして産業界からの信頼も厚く、これまで高い就職率ならびに進学率を誇ってきている。また最近では、高専の技術者教育システムが海外とくにアジアの高等教育機関から注目されるようになり、実践的技術者の技術者教育システムをアジアに広く普及させる取り組みが始まっている。

高専の技術者教育システムに高い関心を示している国のひとつがベトナムである。ベトナムは、これまで高い成長率を維持してきたが、更なる成長の促進による工業近代化を目指すため、実践的技術者の人材育成能力強化を急務としている。そのような背景のもと、ベトナム政府から高専をモデルとした人材育成支援の依頼があり、国際協力機構（JICA）が主体となって人材育成支援プロジェクトが立ち上がった。

秋田高専は、このプロジェクトの計画策定から実施に至るまで関わり、2014年3月からは教員が1年交替で現地の大学に赴任して技術指導を行っている。現地では、人材育成に関わる技術指導はもちろんのこと、例えば“おりがみクラブ”を広く開催するなど、様々な形式での交流が続けられている。また、ベトナムからは

政府関係者や教員が視察あるいは研修で秋田高専を訪れ、秋田高専での授業を体験して学んだり共同研究に取り組んだりしている。

このような取り組みにより、ベトナムではプロジェクト実施大学に新しく高専コースが設置され、高専をモデルとする新しい教育課程が導入されるようになった（日本の高専は中学卒業後の5年一貫教育を特徴のひとつとしているが、ベトナムでは既存の短大コースを基にした3年教育を導入することとし、中卒5年一貫教育については今後の検討事項となっている）。高専コースでは、新しいカリキュラムを導入するだけでなく、事象の観察力の向上ならびに考える学生の育成を目指した学生実験・研究活動を導入したり、問題解決型授業やコンペティションなどを用いた受動的学習から能動的学習への転換が図られている。また、地域や産業のニーズに応える連携の仕組みの導入なども進められている。これにより、学生が主体的に学び、考え、実践できる人材の育成に注力されるようになってきている。

ベトナムの大学とのJICAプロジェクトを通じた国際交流は始まったばかりであるが、これからは友好関係がさらに深まり、学術交流を含めた継続的な発展が期待される。



キャンパス内の様子



発表会の様子



## 秋田での1年間

ノースアジア大学 交換留学生

金 載中 (韓国)

こんにちは、金載中です。僕は韓国の大田(デジョン)にあるベジェ大学から4月に交換留学で来日し、現在ノースアジア大学の観光学科で頑張っ勉強をしています。日本に来てもう8か月が過ぎました。日本語の能力は日本に来る前よりだいぶ伸びたと感じていますが、日本語の能力だけを伸ばすために日本に来たわけではありません。確かに日本語が上手になりたいから来日したのも理由の一つですが、僕は日本の文化が大好きで、日本の神社とか武家屋敷など日本の文化に直接ふれたかったというのが大きな理由です。友達からは東京とか大阪とか大都市に行かず何で秋田に来たのかとよく質問されましたが、僕は賑やかなところより静かなところが好きなので、秋田を選択しました。

僕が秋田に来て「珍しいな!」と思ったことがあります。それはまず、杉です。僕が住んでいる韓国の大田では杉を見かけることができません。ところが、秋田に来たら杉がたくさんありました。田沢湖に行く途中で車の外を見たとき、山の大部分が杉でした。映像の中だけで見た杉を直接たくさん見ることができて、とても嬉しかったです。次に珍しいと感じたのは自然です。僕が自然の写真を撮る写真作家だったら、秋田県内のあっちこっちに行きながら、写真を撮りっぱい撮ります。それほどに僕は秋田県内全体が綺麗だと感じています。これ以上綺麗なところがないくらい秋田は自然が素敵です。

秋田に来て最も記憶に残る思い出は2つあります。まず、農業体験です。今年の秋に仙北市で農業体験をしました。大学では僕1人だけが

参加することになって、「1人でちゃんとできるかな」と心配しました。ところが心配は無駄なことでした。一緒に行った方達も民家の方達もみんな優しくしてくれて、友達になることができました。みんなと一緒に働いて苦労をしたり、ご飯を美味しく食べたり、笑いながら遊んだりしてとても忘れられない思い出になりました。秋田に留学しに来た方達には、この農業体験をお勧めしたいです。

もう1つは竿燈祭りです。この思い出は決して忘れられないくらい素晴らしかったです。僕も竿燈祭りに参加しました。太鼓を担当しました。4か月ぐらい練習しましたが、上手くできませんでした。でも、竿燈祭りの思い出は「太鼓、辛かったな」より「本当に楽しい祭りだった」のほうです。ノースアジア大学で竿燈祭りの授業を受けたことは今でもいい選択だったと思っています。

もう日本で生活する時間があまり残っていませんが、残りの時間を無駄にならないように有益に使うつもりです。





# 日本で人生の道を 開きましょう

秋田県立大学  
システム科学技術研究科 経営システム工学専攻 修士2年

黄 菁言 (中国)

白駒の隙を過ぐるが如し。私が日本に来てから、もう二年が経ちました。毎日が感動、刺激、発見の繰り返しで、興奮冷めやらぬ日々を送っています。子供の頃から日本のアニメが大好きなので、日本に憧れ、日本への期待に胸を膨らませて、日本に留学しに来ました。いろいろな人から「何で秋田に来ましたか」と聞かれました。元々は、雪や海が見られない中国の無錫で生まれて、日本の東北に留学したいと思いました。「秋田に来てよかったです」という気持ちを二年間ずっと抱き続けています。

来たばかりの時は、日本語が全く分かりませんでした。ですが、この町に住んでいる人々が何も分からなかった私に優しくしてくれました。来たばかりの冬、雪がすごかったです。町の日本語教室の先生たちは私を家に招いていただいて、日本語や日本のことを教えてくれました。先生に「何でこの日本語教室を開催されましたか」と聞いたときに、先生は「外国人に日本語や日本のことを教えてあげることを通じて、一緒に思い出を作ることが最も大切です」と答えてくれました。それを聞いて、私は自分の見えない所で他の人がそんな立派なことを考えていたことを知り、暖かみを感じました。それは寒い冬の日でした。

大切なメモリを作れることは、秋田県立大学の先生や日本人友達がいなくしてはできませんでした。秋田県立大学の先生達は、私が授業に分からないこと、研究に困ること、生活に悩みことなどを優しく助けて頂いて、先生達にはどれほど言葉をつくしても感謝の気持ちを十分に表すことはできないほど、お世話になりました。

また、私は大学院に入ったから、一緒に授業していた学生、または研究室の学生と友達になってから、多くの刺激と示唆を得ることができました。留学生として、言語などの問題がいつもありますが、私の面倒を優しく見ていただき、暖かいご助言を賜り、本当に助かりました。

秋田に住んでいる2年間は人生に残る思い出のブ

レゼントだと思っています。一番大変だったことは、日本語の勉強をすることです。私は、日本語は繊細な心づかいを込めた気配りの表現が極めて豊富で、人間関係を尊ぶ言語だと思います。一生懸命勉強していますが、日本語の難しさをこの二年間ですごく実感しています。また、大学以外のことでは、東京、京都、奈良、大阪、富士山、鎌倉など多くの場所へ旅行にも行きました。温泉、紅葉、伝統的な祭り、新幹線等々、人生で初めての体験がたくさんあったことが昨日のこのように思い出されます。

また、日本語を活かすために、日本の就職活動に参加しました。日本人と一緒に就職活動に参加したことを通じて、やはり一人ひとりがいろんな失敗を経験することはとても大事だと思いました。頑張るほど、チャンスはいっぱいやって来ます。夢は逃げない、逃げるのはいつも自分だと考えました。そして、やっとのことで、株式会社東新システムから内定を頂きました。将来向かうお客様は全員日本人ですので、さらに日本の文化、日本人の考え方をより一層理解していきたいと思っています。

後悔のない留学生生活を過ごすことができたこの秋田、特に秋田県立大学に私は感謝の気持ちでいっぱいです。この先、まだ長い道のりだと思いますが、将来も大好きな日本で仕事も、生活も一生懸命頑張りたいと思って、新しい人生の旅に向かっていきたいです。





## 留学の重要性

国際教養大学 短期留学生

ケンドラ・ディヴァインプリングル  
(アメリカ)

私はよく周りの人々から「なぜあなたは外国に留学に行こうと思ったの?」と聞かれます。その度ごとに私はどう答えれば良いのか分からず答えに詰まってしまうことがあります。私は幼い時から旅行が好きでした。特に日本への興味は強いものがありました。それはきっと私がアニメ、漫画や日本語自体の大ファンだったからだと思います。私は将来日本で英語の先生をしたいと思っています。なので、日本へ留学することは私の日本語を上達させるだけでなく自分が将来接していく文化や生活を知ることができるという意味で有意義であると思いました。今思えば海外留学は私の人生にとって自然な流れだったと思います。そして、実際に海外で生活することで留学の様々な重要性にも気づきました。

国際教養大学を留学先に選んだことで私は日本人学生だけではなく多くの海外留学生、それも私が聞いたことのない国から来た学生達とも知り合うことができました。彼ら、彼女らとの出逢いは、私に世界がたくさんの多様な人々により成り立っているのだという発見を与えてくれました。

この海外留学で私の一番好きな時間はRCOSを通じた子供たちとの交流です。

英語の先生になる!という夢を持つ私は、将来英語を教えることになるであろう国の子供たちと交流するという機会に飛びつきました。RCOS\*での活動



を通して、私は異なった文化同士に橋を架けるという体験が出来ました。RCOSでのイベントは、主に子供たちを大学に迎える又は学校を訪問して英語教育を手伝うというものです。

イベントに参加する留学生は自分の母国や、その文化について話します。その時はその留学生が普段見せない面も見られます。私もそのような経験を八峰町への小旅行イベントで体験しました。このイベントを通して、参加学生はそば作りや折り紙などの日本文化を体験することが出来ました。海外留学は私に母国を紹介することだけでなく、他学生の母国について知る機会も与えてくれました。

要するに、海外留学は学生にとって大変意義のあることだと思います。私たちは海外留学を通して自分自身の母語に取り組み、より習熟するだけでなく、他の方法からは得られない視点を手に入れることができます。私は帰国に際し、海外留学を私の故郷でも奨励したいと思っています。他の多くの学生が私の得た恩恵を受けることができるように。

\*RCOSは国際教養大学で学生と地域との交流活動を担当している部署の名称。Research and Community Outreach Servicesの略





## 私の夢は終わりません

秋田工業高等専門学校  
物質工学科5年

チンバト エンフザヤ (モンゴル)

みなさん、あんべいかがですか。

私は、モンゴル・ウランバートル出身のチンバト エンフザヤです。秋田工業高等専門学校・物質工学科の5年生です。

高校生時代からの夢だった日本での留学生活が始まって4年が経とうとしています。最初の1年間は東京の日本語学校で、日本語だけでなく、日本事情や文化も学びました。

1年後、秋田高専で新生活が始まることになり、未知の秋田で暮らす楽しみ、不安を抱きながら来秋しました。東京から秋田に来た当初は、寂しく、不便を感じたりしました。電車が1時間に1本しか走らないことを知らず、駅で長い間待っていたことは今でも忘れられません。でも、困った時・勉強がわからない時、秋田高専の先生方や級友にいつも助けていただいたおかげで、徐々に秋田の生活に慣れ、楽しいことが増えていきました。

学校生活で一番心に残っている思い出は、高専祭のライブで日本人や留学生とバンドを組み、ボーカルとドラムを担当したことです。ライブ後、多くの学生達や先生方に声をかけていただき、とても嬉しかったです。

秋田は、春の桜・夏の祭り・秋の紅葉・冬の雪と四季がはっきりしているので、1年中楽しむことができました。留学生や短期留学生のフランス人やフィンランド人・日本人の学生達と一緒に千秋公園でお花見をし、フェスティバルに行ったり、お互いの国々の言葉を学んだり、楽しく異文化交流をしました。また、モンゴルには海がないので海水浴をしたことや花火見物

も貴重な思い出になりました。初めて、仙北市の農家に泊まり農業をし、収穫の喜びも体験しました。秋田の冬・雪は好きです。モンゴルの方が寒いのですが、積雪は秋田の方が多く綺麗です。

3年間、多くの人に支えていただき、大変お世話になりました。迷子になった時・困った時、声をかけてくれた優しい人達。いつも“めんこいなあ”とお菓子をくれたおばあさん。秋田で接した優しさを大切にしていきたいです。

4月から、東京農工大学・工学部に編入します。より学びを深め、卒業後は、日本の化学系企業で再生可能な製品の研究開発の仕事に就きたいと思っています。

将来は帰国し、日本で学んだ知識を生かし、土壌汚染の問題・環境に優しい製品の製造・ゴミの分別やリサイクルに取り組み、自分の工場をつくりたいという夢を持っています。

へば、秋田での出会いに感謝して…。





## あっという間の留学生活

秋田大学  
教育文化学部 特別聴講学生

ニクラエ クリスティアナ マリア  
(ルーマニア)

もうすぐ人生で大切な6ヵ月間が過ぎようとしています。時間は飛んでいる矢のように早いです。その間色んな経験を積んだり、新しい人たちに会ったりしました。新しい生活が始まりました。「初めて」のことも一杯あるし、忘れない思い出がたくさんできました。

私が留学を決意したのは、もっと日本語を勉強したいという理由からで、大学選びの際はカリキュラムを一番重視していました。また、留学した友達からの意見や大学の設備や町の雰囲気などのこと考えました。秋田大学の国際課はたくさんのバスフィールドトリップを企画してくれています。そして留学生にイベントや大切な情報などについてメールで送って、問題があればいつも相談ののってくれて、留学生にとって本当に心強いと思います。

例えば、私は10月に日本人の学生と他の留学生と一緒に1泊2日で西木町に旅行に行く機会がありました。初めて日本の伝統的な家に入った時、今日の生活と比べるとまるで別世界のように感じるが多かったです。すばらしい伝統美に圧倒されました。私を温かく受け入れてくださった農家の方々、本当に感謝しています。また、その他に料理体験もしました。皆で作って皆で食べるのは美味しさが違いました。本当に美味しい

料理ばかりで、日本の文化の良さが伝わってきました。このことは絶対絶対、一生忘れません！

また、友達と一緒にたくさんの町に旅行に行きました。(例えば、東京や京都や仙台などの重要な町) 本当に貴重な体験ができました。友達を通じて日本文化に対する理解も深まり、ルーマニアのことを伝える良い機会にもなりました。

私が日本で暮らしながら一番感動したことは、人に感謝する気持ちを忘れないことです。今年、初めて初詣に行きました。そこで人が、お互いに顔を合わせて「明けましておめでとうございます」や「今年もよろしくお祈りします」などと言う感謝の挨拶を見ました。これを見ると私は温かい気持ちになります。

今まで秋田で過ごした時間はとても大切なもので、言葉では表しきれないくらい感謝しています。





## 「分からない」と言える勇気

国際教養大学  
国際教養学部4年

熊谷 ひかり（日本）

生まれてから此の方20年間を日本で過ごし、海外にずっと憧れを抱いていた私にとって、初めてのアメリカでの海外生活は非常に刺激的で実りのあるものでした。ただ同時に、ほとんどの日本人が最も親近感を感じる国だとはいえ、日本とは全く異なる文化や言語を持った国で一年を過ごすのは、苦勞の連続でもありました。

留学先での最大の目的は、日本ではまだ一つの分野として確立していない、女性学やジェンダーについて学ぶことでした。全留学生2500人のうち唯一の女性学専攻として周りの学生と肩を並べて勉強するのは並大抵のことではありません。社会学の中の学問として位置づけられるこの分野の授業では、毎日数十ページ、一週間で数百ページもの英語のリーディング課題が出されます。グループディスカッションがある度に、話したいが話せない、聞きたいが聞き取れないというジレンマに陥ることも日常茶飯事でした。さらにアメリカの文化や社会背景を知っているという前提で授業の内容が進んでいったので、英語自体は分かるが内容が全く理解できないという苦い思いもしました。

授業の外でも、ネイティブスピーカーが日常会話で使う言葉や、話すスピードに全くついていくことができず、最初は理解しているふりをして頷いたり、周りに合わせて笑ったりすることもありました。唯一自信があった自分の英語力は留学先ですぐに叩きのめされてしまったのです。

このような留学の中で私が得た最大の力は、英語力ではなく、「分からない」と言える勇気でした。恥を捨て、自分ができないことを素直に認め、「それってどういうこと?」、「聞き取れなかったからもう一度言って」と言えるようになった途端、教授や友人にたくさんのサポートをもらうことができるようになったのです。必死に喰らいつく私の性格の甲斐もあって、最後の学期には沢山の友達ができ、周りに

も引けを取らない成績を取って帰路に着くことができました。

現在は、留学先で勉強した内容をさらに発展させ、日本国内の民族的マイノリティの研究を進めるため、海外の大学院進学を目指しています。グローバル化が進む日本社会では、文化や言語の違いのために、私がアメリカで経験した以上の苦勞を味わっている人たちがさらに増えると考えているからです。将来は、様々な文化背景を持った人々が日本でより豊かな生活を実現するための研究をして、社会貢献をしたいと思っています。





## 愛に包まれた留學生活

秋田大学  
工学資源学部電気電子4年

李 歆 (中国)

私は日本の言語、文化、歴史に興味を持ち、自分の肌で感じ、自分の目で見ることによって本当の日本を理解したいという思いから、日本に留学することを決めました。高校を卒業後、群馬県で2年間日本語を勉強し、その後、秋田大学に入学しました。

日本は豊かな自然にあふれ、その中で素晴らしい文化が生まれました。特に秋田は自然に恵まれ、特有の歴史・文化を持ち、とても魅力的です。秋田は四季の移り変わりがはっきりしていて、春は桜、夏は海、秋は紅葉、そして冬は雪、それぞれ全く違う顔を私達に見せてくれました。静かで癒される環境、落ち着いた雰囲気です。生活してきた秋田の方々には非常にやさしいです。私は秋田で生活してきた4年間、たくさんの方々にお世話になりました。学習内容について質問があれば、先生方がやさしく説明してくださり、生活に関する問題は国際課のスタッフが熱心に相談に乗ってくださり、アルバイト先の店長、同僚もいろいろと手伝ってくださり、皆様のおかげで楽しい留學生活を送ってきました。

秋田に来てから初めてスキーを体験し、それからスキーが好きになりました。毎年国際課が企画しているスキー合宿に参加しました。スキーを楽しみながら、いろいろな国から来た留学生たちと異文化交流ができ、たくさんの友達を作りました。今年も予定を立ててスキーに行きたいと思います。

今年の5月ごろ日本で就職することを決めました。最初は日本で就職しようと思った時にいろいろな悩みがありました。就職はどうやって始めるか？どんな資料を準備したらよいか？自分はどんな業界に向いているか？……などの様々な問題に直面しました。先輩から、秋田大学の学生支援課で就職支援をしてくれる事を聞きました。私は学生支援課のスタッフの方からたくさんアドバイスをいただき、就職活動を始めました。その後、先生からの推薦をもらい、日本国内メーカーで、海外展開もしている会社から内定をいただくことができました。来年からは社会人になりますが、留學生活の経験を活かして、日本だけでなく、海外でも活躍していきたいです。みなさんも留學生活においていろいろと大変なことがあると思いますが、困難があったら一人で悩まず、回りの人と相談して、力を合わせて壁を乗り越えましょう。



## 第三の故郷を見つける農家民泊2015

秋田地域留学生等交流推進会議では、秋田県仙北市西木町において七度目となる農家民泊事業を実施しました。昨年に引き続き「第三の故郷を見つける農家民泊」と題し、秋田県内の留学生や日本人学生が地域の農家の方々とグリーン・ツーリズムを通じて交流を深めました。

本事業では、二回の農業体験プログラム（農業体験ツアー、収穫感謝祭ツアー）を実施しました。

10月の農業体験ツアー（10月3日、4日実施）は、一泊二日で行われ、1日目は協力農家9軒に分かれて農作業と農家民泊を体験しました。農家ごとに野菜の収穫や、全国的に有名な西明寺栗の収穫体験、きりたんぼ作り、着物の着付け体験や、栗の渋皮を煮た煮汁を使ったハンカチ染めなど、地域の特性を生かした体験が行われました。

農家民泊体験についても、日本の家に宿泊すること自体初めての学生が多く、日本独自の民家に感動を覚えていました。畳に座ることや、布団に寝ることなど各農家で体験全てが学生たちの心に響いていたようでした。

農業体験ツアー2日目は、参加者全員がかたくり館に一堂に会し、各農家で作った料理を持ち寄っての食事会と、1日目の振り返りを行いました。振り返りではグループごとに2～3分の発表を行ってもらいました。発表では皆、それぞれ体験したことを

楽しそうに語っていました。

11月2日の収穫感謝祭ツアーでは、まんじゅう作りや餅つき体験とともに、10月のツアーで撮った写真を使い、グループごとにアルバム作成をしました。まんじゅう作りでは、あんこが入った生地、色つきの生地で思い思いの飾りつけを行いました。学生たちが作り出す個性的なデザインのまんじゅうに農家の方々も「おもしろい」と楽しんでいる様子がうかがえました。餅つきは、参加者のほとんどが初めての体験でした。つきあがった餅や農家の方々手作りの料理を食べながら10月のツアーの思い出などを語り合っていました。アルバム作成では、写真にメンバー全員でコメントやイラストを加えて作成し、お世話になった農家の方々にプレゼントとしてお渡ししました。アルバムを受け取った農家の方々からは「思い出が増えてうれしい。すばらしいプレゼントだ。」と喜んでいただくことができました。

2回のツアーを通して、参加者からは「また参加したい」「個人的にまた農家さんに会いに行く」「第三の故郷を見つけた」という声を聞くことができました。また、農家の方々のあたたかいもてなし、壁を感じさせないコミュニケーションが、参加者の間に、「心が通じ合えた」「ここに来てよかった」という感想を抱かせてくれました。



初めての囲炉裏



ほうれん草の収穫体験



着物体験



アルバム作り

## 留学生との草の根国際交流活動

■ (公財)秋田県国際交流協会 (AIA)

秋田県国際交流協会は、「多文化共生社会の推進」、「民間団体等の活動の活性化」、「国際化の情報や機会の提供」を3つの柱とし、これらを達成するため様々な事業を実施しています。

平成18年度より実施しているホストファミリー事業「あきたのファミリー」は、主に県内の大学に在籍する留学生を対象としており、留学生と県民が交流を通し互いの文化の違いについて理解を深めることを目的としています。今年度は、12月末日現在で14ヶ国55名の留学生から申し込みがあり、すべての留学生を41家族に受け入れていただきました。留学生からは「秋田の一般家庭での生活を知る良い機会になった」、受け入れ先ご家族からは「とても良い経験になった。留学生との交流は帰国後も続いている」など、本事業に対しては好意的な感想が多く寄せられています。

また、5月、6月、10月、11月に「AIA異文化交流カフェ」を、12月に「AIA国際交流クリスマスパーティー」を開催しました。延べ200名を超える参加者には、12ヶ国25名の

留学生が含まれます。AIA異文化交流カフェは、県民と在住外国人が気軽に交流できる場を提供することを目的に、外国の文化や風習など毎回異なるテーマを設定して開催しています。6月のフィリピン文化をテーマとした「フィリピンフィエスタ」、11月のブラジル文化をテーマとした「アミーゴス・ド・ブラジル」では、参加者として来たそれぞれの国出身の留学生が、その日紹介された踊りや遊び等を他の参加者に教えたり、逆に日本の文化を教えられていたり、互いの文化を教えあいながら楽しく交流していました。また、12月のクリスマスパーティーには、「あきたのファミリー」で交流中のホストファミリーと一緒に参加された留学生も多く、クイズ大会やゲームに仲良く寄り添って参加されている姿が印象的でした。

秋田県国際交流協会は、県民と外国出身者の両方が住みやすい「多文化共生社会」を構築するため、これからも各種事業を展開してまいります。引き続き、皆様のご協力をお願いします。



異文化交流カフェ (5月)



異文化交流カフェ (6月)



異文化交流カフェ (11月)



クリスマスパーティー (12月)

# Think globally, act locally

— 今こそ 互いがパートナーに —

## 秋田県国際交流をすすめる女性の会：わびえ

1985年設立以来2015年5月「秋田県国際交流をすすめる女性の会」は30周年を迎えた。

この記念すべき年に、30年の「わびえ」の歴史の重みを強く感じながら、時代の流れの中で、活動の柱である「わびえ奨学プラン」を中止することとなった。

1992年から将来母国と日本の架け橋に成りたいと勉学に励んでいる私費女子留学生への支援事業である。過去24年間で延べ101名の方々に支給された。しかし、残念ながら、時代と共に、私費留学生が少なく大学からの推薦が困難であること。また本来の健全活用がなされていない。等の理由により中止となった。

「わびえ奨学生」の皆様の益々のご活躍をお祈り致します。

尚、今後「プラン」の使途については国際協力活動に役立つ貢献をしたいと考えている。

9月「わびえ」四地区研修 交流会を開催。

研修として「わびえ」初代会長 長谷山包子さんを偲んで『旧長谷山邸』を訪れた。

「旧長谷山邸」は羽後町総合交流促進施設として改修整備された歴史的建造物である。

田代出身の世界的な前衛舞踏家 土方巽氏を被写

体とした写真集「鎌鼬」の舞台となった「旧長谷山邸」の土蔵に「鎌鼬美術館」の設置が予定されている。「わびえ」の原点に振れた興味深い話である。

交流会では「五輪坂温泉—としらんど」を会場に、羽後牛を堪能しながら、会員の絆を深め足跡を辿ることが出来た。

《地区交流活動》

由利本荘地区では伝統行事の「ひな祭り」「米まつり」等のイベントを通して在住外国人・留学生や被災者家族との交流。

大仙・仙北地区では伝統行事「ひなまつり」「グラウンドゴルフ交流会」を開催。交流食事会・呈茶等のイベントを通して、日本に嫁いでいる外国人女性と家族との交流。

横手地区では伝統行事「七夕まつり」「栄公民館祭り」「南部男女共同参画センター祭り」を開催。バザーやお茶席等のイベントを通して一般市民への男女共同参画への関心、理解を深めながら交流の場を広げる。

湯沢地区では在住外国人、留学生と共に世界の料理を学び合い、理解を深めている。

その他、国際協力活動への支援。



# 平和を祈りながら

## ■ 秋田ユネスコ協会

2015年は、戦後70年、そして国連にUNESCOが創設されて70年の節目の年でした。

丁度この節目の年の7月25～26日に、東北ブロック・ユネスコ活動研究会が秋田市で開催されました。東北と新潟の7県から約180人のユネスキャンが参集し、ESD (Education for sustainable development) をメインテーマに話し合いました。地球の持続可能性を考え行動する人材を育むために、各ユネスコ協会がどう活動するかという大きな課題について相互に情報交換し、有意義な研究会となりました。



戦後70年というと、秋田で忘れることができないのは、終戦前夜に土崎を襲った空襲です。8月15日高校生を対象に、土崎空襲の惨状を知り、平和の大切さについて学んでもらうユースセミナーを実施しました。空襲のDVDを鑑賞し、空襲を体験した語り部の講話を聞き、その悲惨さを実感し、感想を発表しあいました。その後、正午に千秋公園の「時鐘」で平和への願いを込めて、



交代で鐘をつきました。

響き渡る鐘の音を聞きながら、あらためて参加者全員で平和な世界の実現を祈りました。

27回目となる「外国人による日本語スピーチ・コンテスト」は、11月8日、中国、インドネシア、マレーシア、ミャンマー、モンゴル、ロシアの6カ国11人が出場して実施されました。いずれのスピーカーも日本語習得力が高く、また表現力も豊かで驚かされました。

内容は、言葉も風習も異なる国で暮らし、新たな文化にふれることで得られた体験をもとに、現在の自分の立場、自分の国の状況から将来の夢を語ったものが多くみられました。

関心を引いたのは、インドネシア出身のヌルウィスラ ファウジさんの「私もイスラム教です」というスピーチです。世界中でテロを行うのはイスラムというイメージが作られているが、“どんな宗教でもテロを決して許していません。多くのイスラム教徒はテロを悲しみ、平和を望んでいます”という言葉は、大勢の共感をよびました。

最優秀賞はモンゴル出身のオロホントールさん。遊牧民として生活した体験から、モンゴルの子どもたちのための移動学校を作りたいと、将来の夢を語りました。



文化の違いを越えて理解しあい、世界の平和のために一歩ずつ歩みを進め、積み上げていく、スピーチ・コンテストにはそんな力があるのではないかと思います。

# 毎年留学生や技術研修員等との 様々な交流事業を実施

## 秋田県日中友好協会・県日中女性委員会・各地区日中友好協会

秋田県日中友好協会では、毎年留学生や技術研修員等との様々な交流事業を実施しております。

秋田地区日中と県日中女性委員会では、毎年合同で中国留学生秋田地区学友会の会員を招いて友好交流事業として4事業を実施しています。

4月は、「桜を見る会」を実施していますが、今年は秋田市の一つ森公園で満開の桜の下、留学生及び協会会員合わせて65名が参加しバーベキューパーティーを実施しました。

7月には、比較的内陸出身者の多い留学生のため、潟上市の出戸浜海水浴場で「海に親しむ会」を開催。協会会員や留学生等50名が参加し、海水浴やスイカ割りなどに歓声を上げ、昼には汗をかきかき焼肉に舌鼓を打ちました。

10月は、中国の建国記念日である「国慶節を祝う会」を秋田市内のホテルで開催しビンゴゲームやカラオケなどを行い、約80名の参加者が楽しく交流しました。

今年1月末には中国の新年（暦の元旦に合わせて実施）を祝う「春節を祝う会」を市内ホテルで予定

しています。

秋田地区協会以外でも各地区協会で活発に交流事業が行われています。7月には能代市日中友好協会「浜辺交流会」、にかほ市日中友好協会では「西施まつり」、9月には横手市日中友好協会「ぶどう狩り」を行い、技術研修員や会員・市民などとの交流が行われています。

また、9月には県日中と女性委員会で、イオン御所野店で開かれた「国際フェスティバル」に並んでブースを開設、それぞれの活動紹介やバザー、中国の紹介などを行ったほか、11月には県日中女性委員会で日本の伝統文化である茶道を体験する「お茶会」を、会員宅の茶室をお借りして実施した。

今年度からは、学友会の役員に秋田県立大学の留学生も加わり、各種事業に多数参加し交流の輪が広がります。

私たちは、遠く国を離れて秋田で暮らす中国人を温かく迎え、市民レベルでの交流事業を進め、日中両国の友好関係が信頼の上で築かれるよう、今後とも長く友好交流事業を実施していきます。



桜を見る会



国慶節を祝う会



海に親しむ会



春節を祝う会

# 県内居住者との交流と相互理解

## ■ 秋田モンゴル友好協会

秋田モンゴル友好協会は、県内に居住しているモンゴル人との交流を通して、相互理解をすることと、秋田での生活が思い出深く快適になるように支援することを中心に活動しています。

秋田県内には、秋田大学に24名と家族13名。国際教養大学に3名。県立大学に1名。秋田高専に2名の計43名が居住している。また国際教養大学からは2名の女子学生が交換留学生としてモンゴル国立大学で学んでいる。

具体的には、6月の当会定期総会に全員を招待し、総会終了後の懇親会にも参加してもらい会員との懇談を通して楽しい交流の時間を過ごした。

秋田には、竿灯をはじめ花火大会、花見や雪まつりの行事が多くあり、協会員有志が案内し喜ばれている。また他団体の行事にも積極的に参加し、モンゴルの文化を発信してくれている。特に、国際フェスティバルやファッション

ショーでは、モンゴル衣装の美しさもあり、大好評でした。また、外国人による日本語スピーチコンテストでは、遊牧民の子供に移動学校を作りたいというテーマで、最優秀賞に輝きました。

モンゴル人からは、1月にモンゴルの旧正月ツァガンサルへの招待。7月には、モンゴルの国体であるナーダムのミニ版の開催。10月にはハローウィンパーティーの開催。それぞれの行事では、モンゴルの伝統料理を作り協会員に振る舞ってくれました。特に羊1頭を蒸し焼きにするホルホグという豪快な料理は、モンゴルの味として協会員も感激しました。

今年度末には、卒業して日本に就職する人、さらに勉学するために他大学に進学する留学生在がいるので、3月早々には送別会を開き、留学の成果を祝い秋田を思い出の多いところにしてもらおうと計画している。



ミニナーダム



ファッションショー



スピーチコンテスト



ハロウィンパーティー

# 草の根の異文化交流の輪

## 国際交流オープンクラス

「国際交流オープンクラス」は、1990年9月に発足した草の根のボランティア活動グループです。

秋田在住の外国の人たちの「日本語を話せる場が欲しい」「学んだ日本語をもっと使いたい」「母国のことを伝えたい」「自国の料理を多くの人に食べて理解して欲しい」「日本料理を習いたい」等などの思いに応えることから活動が始まりました。

「オープン・ひらかれていること・アット・ホーム」がグループのモットー。日本人と外国人、外国人と外国人、日本人と日本人が集い、楽しく異文化交流・国際交流を行っています。

27年度は、12月に《食文化シリーズ》として秋田高専のモンゴルからの留学生を講師に招き【モンゴルの麺づくり】教室を開催しました。

《私の国・あなたの国シリーズ》では、インドネシアの文化・生活・政治・教育・観光などについてのトーク&トークを予定しています。

県のネットワーキングやハーモニまつりに留学生と共に参加し、多くの市民と交流しました。

これからも、秋田工業高等専門学校の留学生たちと国際交流の輪を広げていきたいと思えます。

(代表 伊藤晴美)



# 留学生交流事業の紹介

## 秋田工業高等専門学校

### 【秋田高専留学生の活動紹介】

本校は、平成3年度に最初の留学生を受け入れ、これまで多くの留学生が秋田高専を巣立っていきました。入学してきた留学生に対し、1年間の日本語教育(週6時間)の実施、チューター、留学生指導教員の配置など、きめ細かな留学生教育を行っています。

#### ○第三の故郷を見つける農家民泊

秋田地域留学生等交流推進会議が主催するもので、平成27年度は4名の留学生が参加しました。

#### ○外国人による日本語スピーチコンテスト

秋田ユネスコ協会が主催するもので、平成27年度は最優秀賞を1名、優秀賞を1名、奨励賞を2名が受賞しました。

#### ○学校の枠を越えた外国人留学生研修(秋田開催)

東北地区高専が合同で実施するもので、平成27年度は仙台高専が幹事校として実施されました。



## 秋田県立大学

### 【大学の取組み】

秋田県立大学では、大学院生を中心として留学生を受け入れていきます。少人数教育の特長を活かして留学生の入学から、在学中の生活支援や卒業、就職までをサポートし、きめ細やかな教育指導を行っています。

留学生たちは国際交流サークルの日本学生と一緒に年間通して、さまざまな活動などに参加し、地域の住民と積極的に交流を図っています。



## ノースアジア大学

### 【交換留生活動紹介】

ノースアジア大学では、現在台湾の真理大学、韓国の培材大学から交換留学生を受け入れています。留学生は経済学科・観光学科に所属し、日々日本語能力の向上のみならず経済・観光の勉学に励んでいます。

また、学園内外の学生交流プログラムなどにも積極的に参加し、充実した留学生生活を送っています。

(ノースアジア大学HP <http://www.nau.ac.jp/>)



## 国際教養大学

### 【Meet People in Akita】

国際教養大学では、これまで県内6市町一八峰町・大仙市・男鹿市・由利本荘市・美郷町・仙北市一と異文化交流に関する協定を結び、留学生の派遣、児童・生徒の大学訪問の受け入れなど、双方向の交流を行っています。これらの自治体を通じた交流の他にも、クリスマスや節分などのイベントでの就学前児童との交流、小・中学校との英語活動や異文化理解を中心とした交流、地域の農作業や伝統行事を体験させていただきながらの地域の方々との交流なども行っています。今後も、留学生にとって秋田での留學生活が実り多いものになるよう、さらには地域とともに歩んでいけるよう、積極的に交流活動を展開していきます。(国際教養大学HP：<http://web.aiu.ac.jp>)



地域の運動会への参加



中学生との交流

## 秋田大学

### 【留学生等交流実地見学旅行】

秋田大学在学の外国人留学生に秋田の風土や伝承文化を理解してもらうとともに、留學生活の充実を図るため7月4日と7月5日の1泊2日の日程で鹿角市、仙北市、大仙市への実地見学旅行を実施しました。14名の外国人留学生が参加し、秋田の文化を肌で感じるとともに普段話す機会のない学生同士の交流も深まり、大変有意義な旅行となりました。

### 【日本のもちつき】

外国人留学生に日本のもちつきやお供え物づくりなどを体験してもらう毎年恒例の行事です。日本の文化に触れ、地域もみなさんとの交流を深めることを目標としており、今年も多くの留学生が参加しました。

この他に、農家民泊や着物の着付け体験、スキー合宿などの行事を実施しています。秋田大学国際交流センターのホームページ内EVENT REPORTに実修行事を掲載していますので是非ご覧ください。

<http://www.pcix.akita-u.ac.jp/inter/index.html>



尾去沢鉱山前で集合写真



御座石神社見学



もちつき体験

# 平成27年度 国際交流事業の実施状況

## 地方自治体・国際交流団体

No.	事業名	主催団体名	開催時期	参加者数 ( )書きは、 参加留学生数	事業の内容	
1	甘肅省技術研修員受入事業	秋田県	H27.9～ H27.12	1	中国甘肅省から研修員を受け入れ、秋田県国際交流協会、秋田大学等で研修を行う。	
2	中国天津市友好交流事業		H28.1.18～ H28.1.22	11	天津市より青少年を中心とした訪問団を受け入れ、県内学生とスポーツや文化交流などを通じた友好交流を行う。	
3	ロシア青少年交流事業		H27.7.21～ H27.7.28	8	平成26年度に県内高校生が訪問し交流を行ったロシア沿海地方ウラジオストクにある第51学校から高校生の団を受け入れ、県内高校との交流や大学等の視察を行い、県に関する理解を深めてもらう。	
4	ロシア専門家派遣事業		H27.7.12～ H27.7.19 H27.7.19～ H27.7.26	2	これまで専門家受入を行ってきた医療分野及び農業分野において、県機関の専門家を派遣し、技術指導や視察を行う。(※それぞれの期間1名ずつ)	
5	訪口青年ビジネスチャレンジ事業		H27.7.12～ H27.7.19	51	ロシア沿岸地方との友好協定締結5周年に際し、本県とロシア極東地域との新たな交流の可能性を発掘するため、知事を団長として県内産業界の若手からなる訪問団を派遣する。	
6	あきたのファミリー	公益財団法人秋田県国際交流協会	通年	42組	ホストファミリーとなる家族を募集し、交流を希望する留学生とのマッチングを行う。	
7	にほんごでおはなし		通年	22組	在住外国人と日本語でコミュニケーションをするボランティアを募り、マッチングを行う。	
8	あきた国際フェスティバル2015		H27.9.26	6,163人 来場	住外国人や国際交流団体による活動紹介やステージパフォーマンスを行う。	
9	異文化交流カフェ		5月～3月の 第3土曜日	110(27)	毎回在住外国人をホストに迎え、出身国にちなんだテーマ等を決めて交流し、異文化理解を深める。 ※毎回参加者を30人募集 ※参考:実施状況 ・5月15日「ゲームで体験!異文化コミュニケーション」 ・6月20日「フィリピンフェスタ」・10月17日「英語ではなそう あんなことこんなこと」 ・11月21日「アミーゴ・ド・ブラジル」・1月16日「作って、話して、知っちゃいな?中国の文化」	
10	クリスマス交流会		H27.12.19	80(6)	留学生や在住外国人と県民が各国のクリスマスにちなんだクイズやゲームを楽しみ、相互交流を図る。	
11	(秋田県受託事業) ロシア青少年交流事業		H27.7.21～ H27.7.28	20	ロシア沿海地方高校生6名が来秋し、ロシア語を学ぶ県内高校生等と交流を行い、相互理解を深める。	
12	(秋田県受託事業) 甘肅省技術研修員等受入事業		H27.9～ H27.12	1	秋田県と友好関係にある甘肅省より技術研修員を受け入れ、秋田県内で様々な研修を行うことにより、帰国後はその技術、知識を活かし、自国の発展に貢献する。また一般県民との交流を通じて相互理解を深める。	
13	異文化理解講座		H28.2.21	200	アメリカ人と日本人の漫オコンビ、バックンマクンによる異文化理解講座を開催し、県民が気軽に異文化について理解を深める機会を設ける。	
14	秋田市日本語教室		秋田市	毎週木曜日 (年間38回予定)	329(37)	外国人住民の基礎的な日本語習得を支援するため、日本語教室を開催する。
15	ウラジオストク市建都155年式典参加	H27.6.30～ H27.7.5		2	ウラジオストク市建都155年記念式典および姉妹都市国際会議に出席した。	
16	蘭州市友好代表団受入事業	H27.7.7～ H27.7.9		5	副市長を団長とする訪問団を受け入れ、農業関係施設等を視察した。	
17	キナイ半島郡訪問団受入事業	H27.8.1～ H27.8.4		46	交流合意都市の米国・アラスカ州キナイ半島郡から代表市長を団長とする訪問団を受け入れ、両市民間の友好交流を促進した。	
18	パッサウ音楽家本市公演事業	H27.8.18～ H27.8.20		320	パッサウ市からの要請により、同市の音楽界の本市公演に協力した。(秋田市主催、文化会館自主事業・国民文化祭メモリアルフェスティバルin AKITAとして実施)	
19	(パッサウ)秋田市代表団派遣事業	H27.10.13～ H27.10.19		5	秋田日独協会主催の市民交流団のパッサウ市訪問に合わせ、本市代表団を派遣した。	
20	蘭州市研修員受入事業	H27.10.13～ H27.12.11		4	友好都市の中国・蘭州市から医師2名および教員2名を受け入れ、2ヶ月の研修を行う。	
21	国際理解推進講座	H27.11.28～ H27.12.9		49	市民に秋田市の姉妹・友好都市の文化に親しみ、国際理解を深めてもらうため、中国の切り絵細工「剪纸」の体験講座を開催した。(2回実施)	
22	ブラジル県人会	H27.10.22～ H27.11.2		5	県の南米訪問団の団員として、ブラジル秋田県人会創立55周年記念式典に参加するとともに、バラグアイ、アルゼンチンを訪問した。	
23	日本語教室	藤里町国際交流協会		毎月2回・水曜日	3	外国出身者向けの日本語教室を定期的に開催
24	日本語教室	大館市		毎週月・水曜日 (2時間)	23	日本語を母国語としない方で、大館市に1年以上住んでいるか、住む予定の方を対象
25	中学生海外研修			3月下旬 (7泊8日予定)	16	市内の中学2年生を海外に派遣(旅行費用の2/3を補助)
26	日本語講座	能代市	H27.4～ H28.3	1,800	市内在住の外国出身者が、日常生活に必要な日本語の会話及び読み書き、日本や地域の文化を学ぶ 火曜日:19:00～21:00 木曜日:10:00～12:00	
27	日本語指導ボランティア養成講座		H27.4～ H28.3	300	日本語指導法の基礎を学ぶ	
28	ふれあい交流事業		H27.4～ H28.3	350	盆踊り会、お茶会などを通じて、市民と日本語講座参加者の交流を行う	
29	外国語指導助手(ALT)派遣事業		H27.4～ H28.3	2	国際化の進展に対応するため、外国青年(外国語指導助手)を派遣し、能代市における英語教育及び国際理解教育の充実を図る	
30	月例研修会	にかほ市日中友好協会	年4回	各回15人程度	国籍を問わず活躍されている方を講師として開催する研修会。各回異なる講師をお願いし、国際交流への理解を深める。	
31	西施まつり		H27.8.1	約30	蚶溝寺、象海公民館において開催。松尾芭蕉の俳句で詠まれた中国四大美人の1人「西施(浙江省諸暨市出身)」を縁とした事業。	
32	アナコーテス市中学生交流派遣事業	アナコーテス交流協会	H27.8.4～ H27.8.11	11	姉妹都市アメリカ・ワシントン州アナコーテス市へ中学生8名と引率3名を派遣。ホームステイを通じて交流を行う。	
33	国際料理交流会		H28.2.20	約30	秋田県在住の外国人を講師とした料理交流会。	
34	ショウニー市中学生交流受入事業	ショウニー交流協会	H27.7.30～ H27.8.5	15	姉妹都市アメリカ・オクラホマ州ショウニー市から中学生8名と引率2名、大人訪問団5名を受入。ホームステイを通じて交流を行う。	
35	ショウニー市中学生交流派遣事業		H27.10.21～ H27.10.28	19	姉妹都市アメリカ・オクラホマ州ショウニー市へ中学生15名と引率3名、大人訪問団1名を派遣。ホームステイを通じて交流を行う。	
36	国際交流展	にかほ市国際交流協会	H27.11.1～ H27.11.3	約6,000人 来場	市文化祭会場において、市内各交流協会が交流についての事業紹介の展示を行う。	

No.	事業名	主催団体名	開催時期	参加者数 ( )書きは、 参加留学生数	事業の内容
37	国際教養大学交流事業	大仙市	H27.5.11～H27.12.22	2393 (224)	大仙市内の幼稚園・保育園児、小学校児童、中学生生徒が国際教養大学の留学生とさまざまな交流(来校・来園及び大学訪問)を行う。生徒たちは留学生を通して、直接異文化に触れる体験ができ、また、互いに異なるものを受容する心やコミュニケーション能力を養うことができる。
38	韓国唐津市訪問事業		H27.4.9～H27.4.13	8	大仙市長、関係者が友好交流都市韓国唐津市を訪問し、今後の交流に関する協議を行い「友好交流増進協約」を締結した。
39	韓国唐津市長招聘事業		H27.8.20～H27.8.24	7	友好交流都市韓国唐津市の市長、職員6名を受け入れ、本市の「大曲の花火」へ招待した。また市内の農業施設等を視察し、相互理解を深めた。
40	韓国唐津市スポーツ交流事業		H28.1.7～H28.1.11	15	友好交流都市韓国唐津市との間に結ばれた「交流に関する協定」に基づき、両地域の青少年がスポーツを通して、技術のレベルアップや健全育成を図るだけでなく、異文化に対する理解を深め、国際化時代にふさわしい人材の育成を目指す。(青少年10名、引率等5名派遣)
41	大仙・仙北広域外国席住民等サポート事業		通年	27	大仙市・仙北市・美郷町との広域連携事業として在在の外国籍住民等の相談に相談員が対応し外国籍の方が安心、安全に生活をしていけるようサポートをする。
42	外国青年招致事業(JETプログラム)		通年	8	外国語指導助手(ALT)及び国際交流員(CIR)として外国青年を招致し、市内の幼稚園・保育園、認定こども園の幼児及び小・中学校児童生徒の語学力の向上と国際理解教育の推進、地域住民の異文化理解のための交流活動の推進を図る。
43	日本語教室	大仙会場:毎週木曜・火曜 仙北会場:毎週日曜 美郷会場:第1～第4火曜	各回3～10 人程度	大仙市・仙北市・美郷町との広域連携事業として、在住外国人の日本語能力向上と地域国際化を推進するため、日本語教育ボランティアによる日本語講座を行う。	
44	国際フェスティバルin大仙	大仙市国際 交流協会	H27.10.17	200	在住の外国人や国際交流・協力を行っている団体などと一緒にイオン大曲を会場にステージパフォーマンスやブース展示などを行う。(市と共催)
45	韓国LABO青少年受入事業		H28.1.21～H28.1.28	10	韓国LABOから派遣される青少年が大仙市を訪問し、ホームステイや日本文化体験、スキー体験などを行う。(青少年8名、引率2名受入予定)
46	唐津市綱引き交流訪問団受入事業		H28.2.8～H28.2.11	10	友好交流都市韓国唐津市との間に結ばれた「交流に関する協定」に基づき、両市の共通文化である綱引きを通して交流を深める。(綱引保存会関係者、行政職員合わせて10名受入予定)。
47	国際教養大学との交流事業	男鹿市	通年	906(73)	男鹿市内の小・中学が国際教養大学の留学生との交流を通じて、外国語や外国の文化に理解を深め国際感覚の優れた人材育成を目指す。交流会、英会話教室、国際教養大学訪問。
48	外国語助手招致事業		通年	3	英語指導助手(ALT)として外国青年を招致し、市内の小・中学校児童生徒の語学力の向上と国際理解教育の推進を図る。
49	日本語教室		月2～3回程度(土曜日) 年間24回程度開催予定	106	日本語を母国語としない市内在住者を対象に、日本語の書き方、読み方、風習、日本文化等を学ぶ日本語教室を開催。
50	日米友好の木ハナミズキ植樹式		H27.6.6	20	日米友好の象徴として米国から贈られたハナミズキの苗木20本を植樹。
51	由利本荘市公式訪問団等ハンガリー・ヴァーツ市訪問事業	由利本荘市	H27.7.16～H27.7.22	16	ハンガリー・ヴァーツ市で7月17日～19日に開催されたヴァーツ祭に公式訪問団【6名(市の随行職員3名と通訳1名含む)】、市内を拠点に活動する音楽グループ【10名(市の随行職員2名含む)】、随行職員を派遣し、市内視察や現地での公演を行った。
52	由利本荘市青少年ハンガリー友好交流訪問団派遣事業		H27.7.28～H27.8.5	15	市内中学校12名と引率者3名で構成される訪問団を7月28日～8月5日の日程でハンガリー・ヴァーツ市に派遣し、現地でのホームステイやヴァーツ市をはじめとする様々な地域の視察を通じて交流を図った。
53	第25回日口沿岸市長会議(注:日口沿岸市長会議は日口沿岸市長会、日口極東シベリア友好協会による共催)		H27.8.23～H27.8.26	3	日本海沿岸をはじめとする地域とロシア連邦極東シベリア地域との親善友好と経済協力を促進し、両地域の発展を図ることを目的として、両地域諸都市の経済・観光分野を中心に情報発信・意見交換を行った。(開催地:ロシア連邦ウラジオストク市)
54	日本語教室	横手市(地域づくり支援課)	通年	220	在住外国人向けの日本語教室金曜日の10時から12時、5名程度/年44回
55	明海大学留学生招待事業		H27.10.10～H27.10.12 H28.2.13～H28.2.15	30(10) 30(10)	明海大学(千葉県浦安市)に通う留学生が横手市にホームステイし、各種体験を行う
56	秋田大学留学生横手市農業体験ツアー	横手市(農業政策課)	H27.6.5～H27.6.7	41(39)	農業や農家民泊、伝統文化等の体験を通して横手の魅力を感じてもらおうもの。
57	国際的産学官連携モデル事業	横手市(観光おもてなし課)	H27.7.30～H27.9.6	4(4)	大同大学(台湾)の学生が横手に滞在し、横手の観光PR資料の作成に協力してもらう。
58	八峰町国際交流事業	八峰町	H27.5.13	45(8)	町内中学校AIU訪問
59			H27.5.16	20(9)	ぶなっコランド(三十釜散策)オリエンテーションシーカヤック
60			H27.6.19	150(9)	町内小学校での授業(英語、総合)
61			H27.6.20	50(8)	ホームステイニッ森トレッキング
62			H27.7.10	300(7)	町内小・中学校での授業(英語、総合)
63			H27.7.11	60(7)	ホームステイ町内子ども園との交流八峰町ツアー
64			H27.9.26	20(7)	オリエンテーション国際交流会(八峰町民との交流)
65			H27.10.5	30(3)	町内中学校AIU訪問
66			H27.10.6	30(2)	町内中学校AIU訪問
67			H27.10.23	200(7)	町内小学校での授業(英語、総合)
68			H27.10.24	100(7)	ホームステイ町内子ども園との交流国際交流会(町民との交流)
69	H27.10.29	30(5)	町内中学校AIU訪問		
70	外国語活動充実事業	鹿角市	H27.4～H28.3	2	ALT(外国語指導助手)、CIR(国際交流員)を配置し、小・中学生等の実践的なコミュニケーション能力の育成を図る。
71	日本語講座開設事業		H27.5.9～H27.12.19	113	本市に居住している外国人を対象に日本語講座を開催。※参加申込者は10名。
72	国際交流企画展		H28.2.2～H28.3.28	未定	ハンガリー国ショブロン市との友好交流事業について、広く市民に知ってもらおうとともに、国際交流についての意識向上を図る。
73	済南市行政訪問事業		H27.11.25～H27.11.29	5	中国済南市歴城区に、今後両市の経済的交流の可能性を探ることを目的として、農業、飲食業団体を交えた行政訪問団を派遣した。
74	シェムリアップ市行政訪問事業		H27.11.17～H27.11.21	3	カンボジア国シェムリアップ市に、今後両市の友好交流の可能性を探ることを目的として、行政訪問団を派遣した。

No.	事業名	主催団体名	開催時期	参加者数 ( )書きは、 参加留学生数	事業の内容
75	英会話講座	鹿角国際交流協会	H27.4.24～ H28.3.25	159	市民向け英会話講座の開催・第2-4金曜日・全20回 ※参加申込者は37名、参加者数は12月末までの延べ人数。
76	中国語講座		H27.4.24～ H27.12.11	54	市民向け中国語講座の開催・全14回 ※参加申込者は6名。
77	ハンガリー講座		H27.12.5、12.6	7	「シェブロン市のみなさんへクリスマスカードを送ろう！」講座の開催・全2回
78	国際理解講座		H27.6.6	80	『素顔のアメリカ映画界』～エミー賞メイクアップアーティスト佳緒里ナラ・ターナー氏による講演会
79	ハンガリー国ショブロン市		H27.4～ H28.3	20	市民とハンガリー国ショブロン市の日本語教室生徒との文通交流。
80	日本語学指導員派遣事業		H26.10～ H28.8	1	ハンガリー国ショブロン市へ日本語学指導員(8代目)を派遣し、ショブロン市民を対象とした日本語教室を開催。
81	国際料理教室		H27.7.26、 H27.11.29、 H28.3(予定)	25	在住外国人を講師に迎え、市民向け料理教室を開催・全3回
82	通訳BANK登録事業		H27.4～ H28.3	9	在住外国人や市内に訪れた外国人を通訳面からサポートするメンバーの募集及び登録。
83	中国訪日団受入事業	北秋田市	H27.9.3～ H27.9.6	27	農業視察の受入
84	中国訪日団受入事業		H28.1.21～ H28.1.23	30	学校視察の受入
85	JENESYS2.0事業	仙北市	H27.7.4	100	仙北市内農家民宿に滞在。農山村体験や日本の文化体験などを行う。
86	2015年度JICA青年研修		H27.9.11～ H27.9.12	14	仙北市内農家民宿に滞在。農山村体験や日本の文化体験などを行う。
87	国立台湾師範大学附属高級中学姉妹校締結		H27.10.13～ H27.10.16	35	角館高校との姉妹校締結。角館高校の生徒と交流し、仙北市内農家民宿やホテルでの農山村体験や日本の文化体験を行う。
88	台北市商業デザイン実習及び文化見学団受入	秋田ユネスコ協会	H27.10.25～ H27.10.30	20	仙北市内農家民宿・ホテルに滞在。農山村体験や日本の文化体験をし、中国語でのPRツールの作成を行う。
89	国際理解講座私のシリア「千夜一夜物語」～暮らしの中から見えたシリアと人々の生き方～		H27.4.11	30	講師：渡部 光哉氏 JICA隊員、国連ボランティアなどの活動を通しての講話。
90	東日本大震災・ネパール地震子ども教育支援募金キャンペーン		H27.7.5	30	ほぼろ～どで実施。全員と共に高校生、大学生のボランティアが募金を呼びかけ、10万円弱の募金が集まった。
91	高校生のためのユネスコ・コースセミナーみんなで平和の鐘をつき、心に平和の砦を築こう～日本最後の空襲「土崎空襲」を学ぶ		H27.8.15	30	土崎空襲についてのDVD鑑賞や語り部による講和、話し合いの後、千秋公園に移動して「時鐘」を突き、平和への誓いをした。
92	(AIA主催)あきた国際フェスティバル2015		H27.9.26	9	イオンにて実施。寺子屋支援バザー。ネパール・ルンビニの寺子屋紹介。
93	スピーチ・コンテスト		H27.11.8	120(41)	ジョイナスにて実施。グローバル化が進む現在、一層の相互理解を深めることが大切になってくるが、このコンテストは違いを知り、違いを楽しむ交換の機会であると共に、聴く人、発表する人に新たな視点を与えてくれる好機でもある。
94	ハーモニープラザまつり		H27.11.15	6	アトリオン地下にて実施。アフガニスタン寺子屋支援バザー。
95	ニューイヤーフェスタ2016歌でつながる世界		H28.1.16	110(18)	ジョイナスにて実施。歌を通して国際理解、国際交流を図る。
96	書き損じはがき回収キャンペーン	H28.1.30～ H28.1.31	未定	ほぼろ～どにて実施。集まったハガキは切手や現金に換え、日本ユネスコ協会連盟を通してアフガニスタンの識字教育と生活向上プログラムの支援に使われる。	
97	ホームステイ・ホームビジット受け入れ	一般財団法人 言語交流 研究所ヒッ ポファミリー クラブ	随時複数回	240(50)	ホームステイ・ビジット受け入れ時に定例活動にて交流(多言語のゲーム・多言語自己紹介等)ルーマニア(1)・インドネシア(3)・フィリピン(1)が参加
98	春の交流会		H27.5.10	25(5)	留学生と会食・ゲーム・懇談等(ルーマニア・インドネシア・フィリピンが参加)
99	夏の交流会		H27.6.21	25(1)	留学生とゲーム、会食、懇談等(ルーマニア留学生1名が参加)
100	フェアウェルパーティー交流会		H27.8.9	25(7)	留学生と会食・ゲーム・懇談等(ルーマニア3名・インドネシア3名・フィリピン1名が参加)
101	秋の交流会		H27.9.20	25(5)	留学生と会食・ゲーム・懇談等(インドネシア3名・フィリピン2名が参加)
102	ハロウィンパーティー交流会		H27.10.25	25(5)	留学生と会食・ゲーム・懇談等(インドネシア3名・フィリピン2名が参加)
103	家族交流プログラム		H27.10.30～ H27.11.3	1	会員1名が韓国にホームステイ交流に参加予定
104	冬の交流会		H27.11.29	25(5)	留学生と会食・ゲーム・懇談等(インドネシア3名・フィリピン1名・イラン1名が参加)
105	クリスマス交流会		H27.12.20	25(1)	留学生と会食・ゲーム・懇談等(フィリピン1名が参加)
106	新年交流会		H28.1.3	25(5)	留学生と会食・ゲーム・懇談等(インドネシア3名・フィリピン2名・イラン1名が参加)
107	ひな祭り交流会		H28.2.28(予定)	未定	留学生と会食・ゲーム・懇談等(インドネシア3名・フィリピン2名が参加)
108	フェアウェルパーティー交流会		H28.3.13(予定)	未定	留学生と会食・ゲーム・懇談等(インドネシア3名・フィリピン2名が参加)
109	秋田地区交流会		秋田県国際 交流をすす める女性の 会(わびえ)	H27.6.22	24
110	平成27年度「わびえ」4地区役員交流会	H27.7.27		17	テーマ学習 Think globally, act locally. *各地区の今後の事業計画について *懇談会・交流会
111	「七夕まつり」横手市	H27.7.7		17(3)	在住外国人、留学生と共に横手市の伝統行事「七夕まつり」を開催。イベントを通して交流を深める。
112	横手市・南部男女共同参画センター祭り	H27.9.12		200 (わびえ6)	一般市民への男女共同参画への関心・理解を深めながら交流の場をつくる。バザー、「わびえ」お茶席参加。
113	2015年度「わびえ」4地区研修・交流会	H27.9.26		34	研修として「わびえ」初代会長 長谷山包子さんを偲んで「旧長谷山邸」を訪ねる。交流会は羽後町「五輪坂温泉 としとらんど」に於いて実施。4地区研修を通して更なる交流を深める。

No.	事業名	主催団体名	開催時期	参加者数 ( )書きは、 参加留学生数	事業の内容
114	国際交流・大仙市 グラウンドゴルフ交流会	秋田県国際 交流をすす める女性の 会(わびえ)	H27.10.4	22(14)	日本に嫁いでいる外国人女性と家族との交流。グラウンドゴルフ終了後食事会、表彰式、抹茶をふるまう。
115	横手市「栄公民館祭り」協賛参加		H27.10.18	230 (わびえ5)	地域活動への参加・横手市ブース出展 チャリティー活動。
116	由利本荘市「米まつり」協賛参加		H27.10.24～H27.10.25	38	地域活動への参加・由利本荘市ブース出展 チャリティー活動。
117	「ハーモニープラザまつり2015」テーマ 「もっと身近に男女共同参画。決めるの はわたしPartⅡ」		H27.11.15	500 (わびえ22)	アトリオン「秋田県男女共同参画センター」に於いて登録団体との相互理解と一般市民への男女共同参画への関心・理解を深めながら交流の場をつくる。ワークショップ、DVD上映「ここに咲く花」、イベント広場-活動紹介パネル展示、ブース出展、「ふれあいマーケット」
118	世界の料理講習会		H28.3	未定	在住外国人、留学生と共に世界の料理を学び合い、理解を深める。湯沢地区交流会。
119	第23回「ひなまつり」交流会		H28.2.28	未定	由利本荘市の伝統行事の「ひなまつり」を体験、イベントを通して在住外国人、また、被災者家族との交流。
120	「ひな祭り」「茶会」		H28.3.6	未定	大仙市の伝統文化行事「ひな祭り」を開催。日本の文化、おひな様、呈茶等のイベントを通して、日本に嫁いでいる外国人女性との交流。
121	「わびえ」4地区役員交流会		H28.1.22	14	来年度の方針と今後について秋田の文化・芸術に振れ、4地区との交流を深める。
122	食文化シリーズ		H27.6.27	7	「寿司くいねえ」日本料理で異文化交流
123	みんなで笑いましょう！		H27.8.29	30	笑いヨガで心と体と脳を元気にしましょう
124	秋田の旅シリーズ	H27.10.20	33	田沢湖・抱き返りの紅葉&わらび座で「為三さんの観劇	
125	ハーモニープラザまつり	国際交流 オープンク ラス	H27.11.15	10	みんなで交流しましょう
126	食文化シリーズ	H27.12.13	25(9)	モンゴルの留学生を講師に招き、料理を作って異文化交流	
127	女性会館まつり	H27.11.28	60(5)	笑って心も体も元気に	
128	食文化シリーズ	H28.1.30(予定)	未定	日本の「そば打ち」を体験しましょう！	
129	私の国・あなたの国シリーズ	H28.2.7(予定)	未定	インドネシア国について学ぼう	
130	2015年度通常総会	秋田モン ゴル友好 協会	H27.6.6	17(5)	総会終了後 留学生との交流懇談会
131	ナーダム		H27.7.8	34(30)	モンゴルの国体ともいわれる相撲・弓・競馬のミニ版
132	(秋田地域留学生等交流推進会議主催) 第三の故郷を見つける農家民泊		H27.10.3～H27.10.4	42(32)	仙北市西木町にて農作業・農家民泊体験 (秋田モンゴル友好協会より寄付)
			H27.11.3	40(29)	
133	ハロウィーンパーティー		H27.10.30	32(28)	全員仮装しハロウィーンを楽しむ
134	(井川町主催)外国人と日本の昔遊びを しよう		H27.10.31	5(4)	日本の昔遊びを通じて外国人と幼稚園児との交流
135	(秋田ユネスコ協会主催)外国人による 日本語スピーチコンテスト		H27.11.8	15(3)	外国人による日本語スピーチコンテストに寄付(秋田モンゴル友好協会賞として贈呈)
136	年越しを祝う		H27.12.31～H28.1.1	35(32)	モンゴル人と協会員が年越しを祝う
137	モンゴルの旧正月を祝う		H28.2.9	未定	モンゴルの旧正月を祝う会を予定
138	卒業を祝う会		H28.3(予定)	未定	卒業し秋田を離れる留学生を祝う会を予定
139	桜に親しむ会	秋田地区日 中友好協会 秋田県日中 女性委員会	H27.4.29	65	秋田大学等の中国留学生を招いての観桜会(一つ森公園)
140	海に親しむ会		H27.7.26	50	秋田大学等の中国留学生を招いて交流(戸浜海水浴場)
141	国慶節を祝う会		H27.10.3	75	秋田大学等の中国留学生を招いての祝う会(秋田ビューホテル)
142	春節を祝う会		H28.1.30	80	秋田大学等の中国留学生を招いての祝う会(秋田ビューホテル)
143	茶道体験交流会	秋田県日中 女性委員会	H27.11.29	30	秋田大学等の中国留学生を招いて伝統文化である茶室での茶道体験(秋田市市内会員宅)
144	地引き網交流会	能代市日中 友好協会	H27.7.26	40	能代市内の中国技術研修員を招いて交流(能代市浅内浜)
145	西施まつり	にかほ市日 中友好協会	H27.8.1	100	象潟にゆかりのあるまつりに県立大の留学生を招いて交流(甘満寺、象潟町内)
146	ぶどう狩り交流	横手市日中 友好協会	H27.9.3	40	横手市内の中国技術研修員を招いて交流(横手市内ぶどう園)
147	外国人による日本語スピーチコンテスト	国際ソロフ チミスト秋田	H27.11.8	1	外国人による日本語スピーチコンテストに寄付(ソロフチミスト賞として贈呈)
148	奨学金		通年	30	毎年1名の留学生に奨学金を給付

## 大学・高専

No.	事業名	主催団体名	開催時期	参加者数 ( )書きは、 参加留学生数	事業の内容
1	八峰町との交流プログラム	国際教養大学	H27.5.13, 5.16, 6.19-20, 7.1-11, 9.26, 10.5, 10.6, 10.23-24, 10.29, 11.13-14, 11.19, 12.11, H28.1.23, 2.12-13, 3.5	97 (97)	平成19年度から実施している、交流協定に基づく交流事業。八峰町内の子ども園、小学校、中学校を本学学生(日本人学生および留学生)が訪問し、英語クラスやイベントに参加するなどして、異文化交流を推進している。八峰町内でのホームステイや、小・中学生が大学を訪問しての交流も行っている。
2	大仙市との交流プログラム		H27.5.29, 6.3, 6.10, 6.11, 6.12, 6.17, 6.22, 6.24, 7.1, 7.8, 7.9, 7.13, 7.15, 7.16, 7.21, 7.31, 9.11, 9.16, 9.30, 10.1, 10.2, 10.7, 10.20, 10.21, 10.23, 10.26, 10.28, 11.2, 11.4, 11.5, 11.11, 11.17, 11.20, 11.25, 12.2, 12.4, 12.7, 12.9, 12.10, 12.11, 12.14, 12.15, 12.21, 12.22	224 (224)	平成21年度から実施している、交流協定に基づく交流事業。大仙市内の幼稚園・保育園、小学校、中学校と本学留学生とが交流。大仙市内へ出向いたり、児童・生徒が本学を訪問するなど、双方向の交流を行っている。
3	男鹿市との交流プログラム		H27.5.8, 5.22, 5.29, 6.12, 6.26, 7.31, 9.14, H28.1.8	87 (87)	平成22年度から実施している、交流協定に基づく交流事業。男鹿市内の小・中学校を本学の留学生が訪れ、英語による交流活動を行っている。
4	由利本荘市との交流プログラム		H27.7.1, 7.3, 7.22, 10.5, 10.6, 10.7, 10.25, 11.25, 12.3, 12.4, 12.7, 12.8	128 (128)	平成23年度から実施している、交流協定に基づく交流事業。由利本荘市内の小中学校を中心に、小学生と本学留学生との異文化交流を実施している。
5	美郷町との交流プログラム		H27.7.15, 10.6, 11.04, 11.11, 12.9	17 (17)	平成25年度から実施している、交流協定に基づく交流事業。美郷町内の小・中学校を本学の留学生が訪れたり、小・中学生の大学訪問を受け入れたりしながら英語による交流活動を行っている。
6	仙北市との交流プログラム		H27.4.25, 4.26, 5.2, 5.3, 5.4, 5.5, 5.8, 7.7, 10.20, 10.30, 11.27	30 (26)	平成26年度から実施している、交流協定に基づく交流事業。仙北市内の小・中学生の大学訪問を受け入れ、英語による交流活動を行ったり、地元のイベントに参加したりしている。
7	県内教育機関や各種団体との交流		通年	663 (589)	交流協定を結んでいる市町以外の教育機関の児童・生徒や地域の方々と相互交流を行っている。
8	サテライトセンターとのカンパセーションパートナー(講座)		毎週土曜日	101 (101)	秋田市内明徳館ビル二階にあるサテライトセンターでの活動。毎週土曜日に一般利用者が英会話能力の向上を兼ねて留学生と交流をする。
9	バスツアー		H27.4.29, 6.27, 7.8, 9.19, 10.17, 11.21, H28.2.13	801 (495)	県内外の名所や祭等をめぐるツアー
10	ミツ方森の山焼き体験	秋田県立大学	H27.5.3	5 (5)	300年の歴史と伝統を受け継ぐ行事に参加することにより、町内の人との交流、自然への理解を深める。
11	鳥海高原菜の花まつり2015		H27.5.30～H27.5.31	10	由利本荘市が主催するイベントの運営支援を通じて、地域貢献活動を行う。
12	鳥海山ブルーラインヒルクライムFROM日本海		H27.6.20	3 (3)	鳥海山の魅力を体験し、地域住民との交流を深めることにより地域の活性化を目指す。
13	にかほ市西施まつり		H27.8.1	8	伝統芸能を体験することにより、にかほ市住民の方々との交流を深める。
14	稲刈り体験		H27.10.24	5	地域の子供達と一緒に稲刈りを体験。
15	新山裸まいり		H28.1.17	10	200年の歴史を持つまつりに参加し、秋田の冬行事を体験。
16	平成27年度学校の枠を超えた外国人留学生研修	秋田工業高等専門学校	H28.1.9～H28.1.10	56 (49)	東北地区の高専の留学生の研修、交流会。
17	大学祭	ノースアジア大学	H27.6.27～H27.6.28	700 (6)	大学祭では、所属ゼミ又は所属学部の催し物に参加したり、留学生のブースを出店し地域の方々で交流した。
18	留学生レクリエーション		H27.10.16	15 (6)	留学生が集まってレクリエーション及び鍋こ体験。
19	スキー体験		H28.3 (予定)	未定	秋田県内のスキー場でスキー体験。
20	4月新入学留学生歓迎パーティー	秋田大学	H27.4.3	63 (38)	新入学留学生と留学生寮近隣住民・教職員・日本人フューチャーによるパーティー交流会
21	夏の留学生実地見学旅行		H27.7.4～H27.7.5	16 (14)	留学生を対象とした県内の自然・文化体験旅行
22	グローバル夢ミーティング		H27.8.1～H27.8.2	90 (13)	大学から留学生を派遣して、東成瀬村の小中学生と交流
23	春季留学生修了パーティー		H27.8.6	59 (26)	8月9月修了留学生のお祝い
24	10月新入学留学生歓迎パーティー		H27.9.24	62 (45)	新入学留学生と留学生寮近隣住民・教職員・日本人フューチャーによる交流会
25	餅つき大会		H27.12.21	70 (50)	留学生と近隣住民・教職員・日本人学生による餅つき体験
26	ぼんでん祭り		H28.1.17	38 (37)	留学生も参加する秋田市の伝統的な冬の祭り
27	卒業記念パーティー		H28.1.29	65 (50)	2月3月修了・卒業生のお祝い
28	スキー合宿		H28.1.30～H28.1.31	22 (20)	留学生を対象としたスキー合宿
29	角館火振りかまくら		H28.2.13	20 (20)	留学生も参加する秋田市の伝統的な冬の祭り

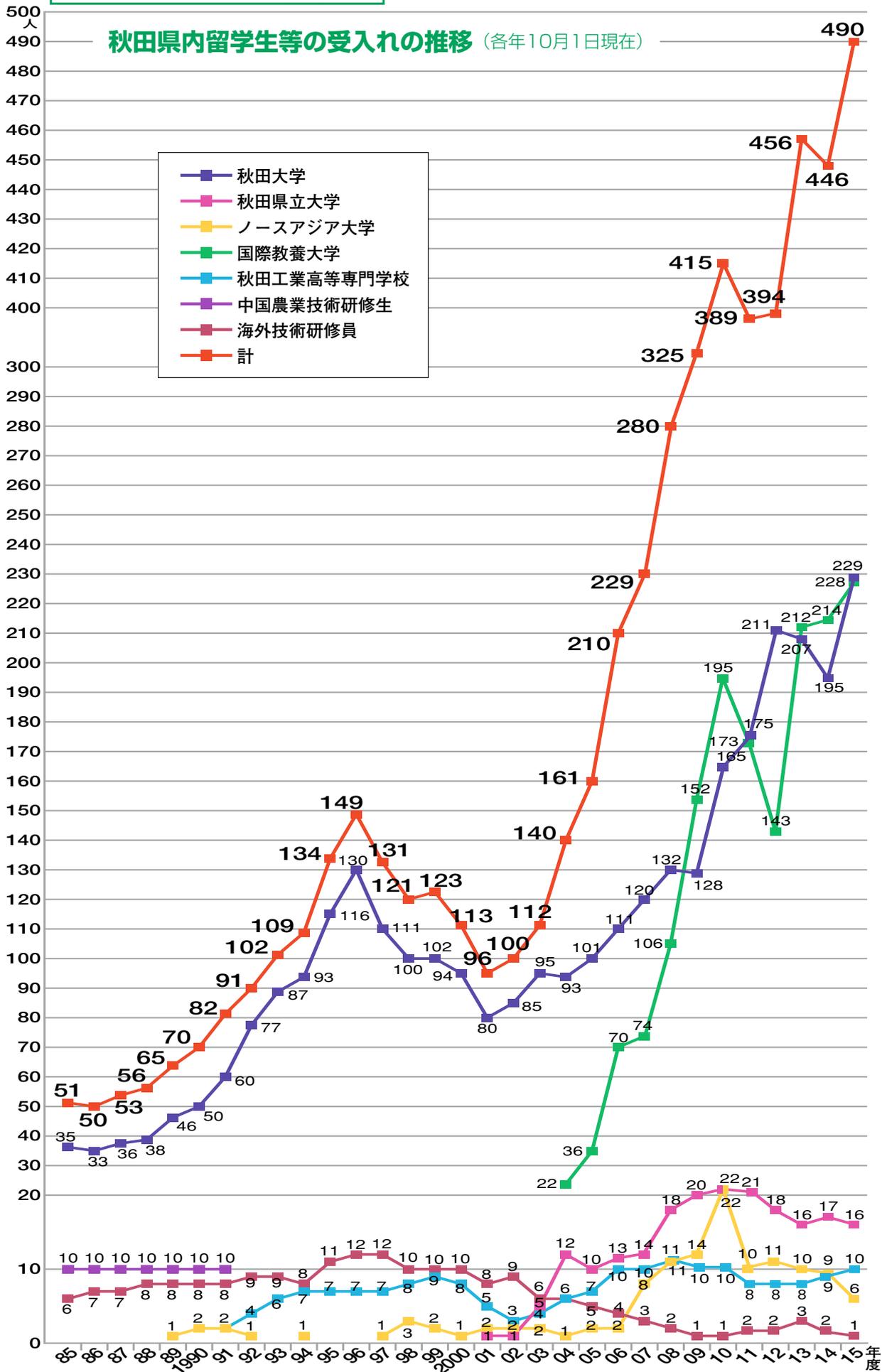
【注1】参加者の( )欄については内数で留学生を示しています。また、H28.1.14現在把握の人数で記入しています。

毎週や隔週行っている行事の「参加者」欄については、累計で記入しています。

【注2】事業名欄については、留学生参加の有無に関係なく国際交流に関連するもの全てを記載しています。

# 留学生関係資料

秋田県内留学生等の受入れの推移 (各年10月1日現在)



## 住居形態別留学生数 (平成27年10月1日現在)

住居別	学校等別	秋田大学	秋田県立大 学	ノースア ジア大学	国際教養 大 学	秋田工業 高等専門 校	秋 田 県	合 計
留学生用宿舎		71(41)						71(41)
大学等の学生寮		12( 0)		5( 2)	225(111)			242(113)
秋田県職員宿舎								
公営住宅								
民間下宿・アパート		120(42)	16( 5)				1( 1)	137(48)
民間企業の社員寮								
ホームステイ								
その他		26(15)		1( 0)	3( 1)	10( 3)		40(19)
合 計		229(98)	16( 5)	6( 2)	228(112)	10( 3)	1( 1)	490(221)

注：( )内は内数で女性を示す。

## 秋田県内留学生等の出身国・地域別在籍状況 (平成27年10月1日現在)

		秋田大学	秋田県立大 学	ノースア ジア大学	国際教養 大 学	秋田工業 高等専門 校	秋 田 県 (海外技術 研修員)	計	地域別 割 合
ア ジ ア	中国	71	15	2	2		1	91	60.6%
	台湾	4		3	23			30	
	香港				2			2	
	韓国	16		1	7			24	
	マレーシア	36				6		42	
	ベトナム	29			3			32	
	モンゴル	20	1		2	2		25	
	インドネシア	11				2		13	
	フィリピン	6						6	
	タイ	2			8			10	
	インド	1			1			2	
	シンガポール				13			13	
	ブルネイ				4			4	
	ミャンマー	1			1			2	
カザフスタン	1						1		
計	198	16	6	66	10	1	297		
ア フリ カ	ケニア	2						2	3.5%
	タンザニア	2						2	
	モザンビーク	1						1	
	マダガスカル	1						1	
	ザンビア	1						1	
	ボツワナ	4						4	
	マラウイ	3						3	
	モロッコ				2			2	
エジプト	1						1		
計	15	0	0	2	0	0	17		
オ セ ア ニ ア	オーストラリア				6			6	2.0%
	パプアニューギニア	1						1	
	ニューゼaland				2			2	
	フィジー				1			1	
計	1	0	0	9	0	0	10		
中 東	アフガニスタン	1						1	1.0%
	パキスタン	2						2	
	イラン	2						2	
計	5	0	0	0	0	0	5		
北 米	アメリカ				75			75	17.3%
	カナダ				9			9	
	メキシコ				1			1	
	計	0	0	0	85	0	0	85	
中 南 米	ブラジル	1						1	0.6%
	ホンジュラス	1						1	
	ボリビア	1						1	
	計	3	0	0	0	0	0	3	
ヨ ー ロ ッ パ	イギリス				11			11	15.0%
	キプロス				1			1	
	ノルウェー				4			4	
	オランダ				8			8	
	ドイツ				2			3	
	イタリア	1						1	
	フランス				8			8	
	スウェーデン				4			4	
	ポルトガル				1			1	
	ポーランド							0	
	チェコ				2			2	
	スイス				1			1	
	スペイン				2			2	
	ルーマニア	3			3			6	
	ウクライナ	1						1	
	セルビア	1						1	
	ロシア				9			9	
リトアニア				4			4		
ラトビア				2			2		
フィンランド				4			4		
計	7	0	0	66	0	0	73		
合 計	229	16	6	228	10	1	490	100%	

# 平成27年度秋田地域留学生等交流推進会議議事要旨（案）

日時 平成27年12月2日（水）16：15～17：00  
会場 秋田大学本部棟第一会議室

議事に先立ち、秋田地域留学生等交流推進会議議長の澤田賢一秋田大学長から挨拶の後、各委員の自己紹介があった。

## 議題

### （1）協議事項

#### ①平成26年度決算報告と平成28年度「地域留学生交流推進会議」事業計画（案）について

事務局から協議資料1-1を基に決算報告があり、了承された。

協議資料1-2を基に、平成28年度の事業計画（案）について、今年度同様ノースアジア大学80,000円、秋田県立大学80,000円、国際教養大学80,000円、秋田工業高等専門学校80,000円、秋田大学80,000円をそれぞれ負担いただき、計400,000円で運営したい旨説明があり、了承された。

また、推進会議懇親会について、今年度と同様に招待留学生数を36名とし、懇親会費も今年度と同様に全て本経費で支出し、留学生からの支出を行わない旨説明があり、了承された。

#### ②その他 なし

### （2）報告事項

#### ①平成27年度学校等別外国人留学生受入数について

事務局から報告資料1に基づき、平成27年10月1日現在、秋田県内において57か国・地域から490名の外国人留学生を受け入れていることの報告があった。

#### ②秋田地域における国際交流団体・外国人留学生等交流推進事業の実施状況について

議長より報告資料2-1及び2-2について説明があり、各高等教育機関から報告があった。

##### 【ノースアジア大学】

大学祭で留学生が各国の料理やゲームの紹介を行ったこと、一つ森公園にて鍋っこ遠足を行ったこと、今後はクリスマスパーティーやスキー体験を予定していることなどの報告があった。

##### 【秋田県立大学】

留学生全員が本荘キャンパスに在籍していることから、由利本荘市における地域に根ざした伝統行事体験を実施していることなどの報告があった。

##### 【国際教養大学】

留学生228名が地域に偏り無く在籍していること、県内6つの市町村と国際交流協定を結び、小・中学生と留学生との交流や地域の農作業体験などを行い、昨年度は年間250件を超える交流プログラムを実施したことの報告があった。

##### 【秋田工業高等専門学校】

モンゴル・インドネシア各2名、マレーシア6名からの留学生計10名全員が学生寮に住んでいること、東北地区の高専から留学生が集まる交流会を宮城県で行うこと、近隣の中学校とも交流していることなど報告があった。

##### 【秋田大学】

留学生229名のほとんどがアジア出身であり、昨年度より国際資源学部が新設されたことで資源国からの留学生が増えていること、留学生の歓迎パーティーや餅つき大会では留学生寮がある町内会の方々にも参加いただき、近隣住民との交流を深めている旨報

告があった。

また、留学生の増加により宿舍不足の問題があること、ムスリム系留学生への支援として生協の売店でハラール認証のスナックを販売するようになった旨報告があった。さらに、留学生の危機管理について事故の例を交えて説明があった。

#### ③平成27年度留学生地域交流事業「第三の故郷を見つける農家民泊2015」実施報告について

事務局から、報告資料3並びに実施報告書により、本推進会議主催で財団法人中島記念国際交流財団助成事業に採択された助成金を基に、秋田県内大学・高専から留学生・日本人学生・協力教職員が参加した農業体験ツアー・収穫感謝祭ツアーを仙北市西木町にて実施した旨、また、多くの国立大学から、留学生がどう地域に貢献・交流できるかという具体的な実践モデルとして注目を受けている旨、報告があった。

#### ④その他 なし

### （3）その他

秋田大学より仙台入国管理局秋田出張所へイスラム国など水際対策に対する質問があり、入国時の空港では厳格な審査を行うが、在留中の留学生に対しては通常の審査の範囲内に留まる旨説明があった。

秋田大学よりハラール食の導入について各大学・高専へ質問があり、国際教養大学では、ハラール希望の学生は少ないが、希望があれば学食においてハラール対応の食事を提供している旨説明があった。秋田県立大学では、ムスリム系留学生が数名在籍しているが、大学としては特に対応しておらず、指導教員が個人的に対応している旨説明があった。秋田工業高等専門学校では、学校としては特に対応しておらず、寮生活の中、留学生自身でハラール食を作っている旨の説明があった。

また、ムスリム系留学生のためのお祈りの場所について、秋田工業高等専門学校と秋田大学ではお祈りをする場所を学生自身が確保している旨報告があった。

事務局より、今年度も「あきた留学生交流28号」を平成28年2月下旬に発行予定であり、これから原稿執筆など関係の方々に依頼をする予定であることの説明があった。

### （4）閉会

その後、場所を生協に移して行った留学生との懇親会では、秋田地域留学生等交流推進会議議長である澤田賢一秋田大学長の挨拶の後、参加留学生32名（36名を予定していたが、4名体調不良により欠席）全員からの日本語と英語を交えた楽しいスピーチが披露された。美味しい料理に舌鼓を打ちながら、大学の垣根を越えて楽しそうに交流する姿が見られた。普段ふれあう機会の少ない他大学の学生との交流をはかることが出来る有意義な懇親会であることを再確認した。

# 秋田地域留学生等交流推進会議要項

## (設置及び目的)

第1 秋田地域における留学生等の受入れの促進及び交流活動の推進を図るため、秋田地域留学生等交流推進会議（以下「推進会議」という。）を置く。

## (事業)

第2 推進会議は、第1に掲げる目的を達成するため、秋田地域における留学生等の受入れの促進及び交流活動の推進に関する重要事項について協議する。

## (委員)

第3 推進会議は、次に掲げる者をもって組織する。

- 一 秋田地域の関係大学等の長
- 二 秋田地域の国・地方公共団体の関係機関、経済団体、国際交流関係団体の長又は代表者 各1名
- 三 学識経験者 若干名

2 委員は、議長が委嘱する。

## (役員及び役員の職務)

第4 推進会議に議長及び副議長を置く。

2 議長は、秋田大学長をもって充て、副議長は、推進会議の議を経て議長が委嘱する。

3 議長は、推進会議を招集する。

4 副議長は、議長を補佐し、議長に事故あるときは、議長の職務を代行する。

## (顧問)

第5 推進会議に顧問を若干名置くことができる。

2 顧問は、推進会議の議を経て議長が委嘱する。

3 顧問は、推進会議の運営及び事業に関し、必要に応じて助言する。

## (委員以外の者の出席)

第6 議長が必要と認めるときは、委員以外の者を会議に出席させることができる。

## (事務)

第7 推進会議の事務は、秋田大学国際課において行う。

## (雑則)

第8 この要項に定めるもののほか、推進会議に関し必要な事項は、別に定める。

### 附則

この要項は、平成元年10月17日から実施する。

### 附則

この要項は、平成14年9月26日から実施する。

### 附則

この要項は、平成17年2月28日から実施する。

### 附則

この要項は、平成19年4月1日から実施する。

### 附則

この要項は、平成21年12月18日から実施し、平成21年4月1日から適用する。

### 附則

この要項は、平成24年12月14日から実施し、平成24年4月1日から適用する。

### 附則

この要項は、平成25年12月4日から実施し、平成25年4月1日から適用する。

## 秋田地域留学生等交流推進会議の事業費に関する申し合わせ

平成22年4月1日制定  
平成25年12月4日一部改正

### (趣旨)

1. 秋田地域留学生等交流推進会議要項第8の規定に基づき、秋田地域留学生等交流推進会議（以下「推進会議」という。）の事業費に関して、次のとおり定める。

### (事業費)

2. 推進会議の運営に必要な経費は、次に定める大学が拠出する負担金をもって充てる。

大学名	負担金
ノースアジア大学	80,000円
秋田県立大学	80,000円
国際教養大学	80,000円
秋田工業高等専門学校	80,000円
秋田大学	80,000円

### (事業年度)

3. 推進会議の事業年度は、毎年4月1日から翌年3月31日までとする。

### (負担金の納入)

4. 負担金の納入は年1回とし、納入に係る事務は秋田大学国際課において行う。

## 秋田地域留学生等交流推進会議構成員名簿

平成27年12月2日現在

区分	所 属	職 名	氏 名
国・地方公共団体	仙台入国管理局秋田出張所	所 長	九 島 亮 胤
	秋田県	知 事	佐 竹 敬 久
	秋田県市長会	会 長	穂 積 志
	秋田県町村会	会 長	佐々木 哲 男
	秋田市	市 長	穂 積 志
経済団体	(一社)秋田県経営者協会	会 長	藤 原 清 悦
	秋田県商工会議所連合会	会 長	三 浦 廣 巳
	秋田県中小企業団体中央会	会 長	藤 澤 正 義
	秋田県商工会連合会	会 長	村 岡 淑 郎
	秋田県農業協同組合中央会	会 長	木 村 一 男
国際交流関係団体	(公社)秋田青年会議所	理 事 長	伊 藤 久 嗣
	秋田ロータリークラブ	会 長	賢 木 新 悦
	秋田国際交流団体連絡会	会 長	佐々木 正 光
学識経験者	独立行政法人日本学生支援機構	東北支部長	伊 藤 彰 子
大学・高専	秋田魁新報社	代表取締役	小笠原 直 樹
	ノースアジア大学	学 長	小 泉 健
	秋田栄養短期大学	学 長	小 泉 健
	聖霊女子短期大学	学 長	平 垣 ヨシ子
	聖園学園短期大学	学 長	青 木 光 子
	秋田県立大学	学 長	小 間 篤
	国際教養大学	学 長	鈴 木 典比古
	秋田工業高等専門学校	校 長	米 本 年 邦
	秋田看護福祉大学	学 長	小 泉 健
	秋田大学	学 長	澤 田 賢 一

# 秋田地域留学生等交流推進会議運営による 資金貸与制度

この制度は、県内の大学・短大・高専に在籍する留学生の皆さんが、民間アパート等へ入居する際に必要となる予約金や、病気や災害などで多額のお金を一時的に必要とする場合に、経済的に困難と認められれば無利子で貸付を受けられる制度です。貸付金は、一人あたり10万円を限度としており、貸付後の翌月から10ヶ月以内の月払いで返済することになっています。また、困っている留学生から相談を受けた場合にも支援窓口関係者からご説明くださるようよろしくお願いします。

## 秋田地域留学生等交流推進会議貸与制度実施要項

1. 目的  
この制度は、秋田地域留学生等交流推進会議構成員である大学・高専（以下「大学等」という。）に在学する私費外国人留学生が民間宿舎へ入居する際の予約金及び外国人留学生が緊急に必要とする資金について、申請に基づき貸与を行い、生活援助を図ることを目的とする。
2. 内容  
民間宿舎へ入居する際の予約金とは、権利金、礼金及び敷金を含み、緊急に必要とする資金とは、疾病、災害等により一時的に必要とする多額の経費とする。
3. 貸与金額  
貸与金額は、10,000円を単位とし、100,000円を限度とする。なお、利息は課さないものとする。
4. 申請  
貸与を必要とする者は、貸付金申請書（別紙様式1）を、秋田地域留学生等交流推進会議議長に提出するものとする。
5. 選考  
本人から提出された申請書の経済状況等を考慮し、秋田地域留学生等交流推進会議運営委員会委員長が選考する。
6. 貸与  
貸与は申請者が所属する大学等の長を通じて行い、貸与を受けるにあたって、借用証書（別紙様式2）を秋田地域留学生等交流推進会議議長に提出するものとする。
7. 返済期限  
貸与を受けた者は、貸与を受けた月の翌月から起算して10か月以内に返済しなければならない。ただし、卒業又は修了等により外国人留学生の身分を失う場合は、身分喪失までに返済するものとする。
8. 返済方法  
貸付金の返済方法は、一括払い及び分割払い（10回を限度）とし、分割払いについては、いつでも繰り上げて返済することができるものとする。
9. 返済の猶予  
貸与を受けた者が、疾病、災害等やむを得ない事由により返済が困難になった場合は、返済猶予申請書（別紙様式3）を提出することにより返済を猶予することができる。ただし、その場合であっても、卒業又は修了等により外国人留学生の身分を失う場合は、身分喪失までに返済するものとする。
10. 事務  
貸与に関する事務は、秋田地域留学生等交流推進会議事務局である秋田大学国際課が行う。
11. その他  
この要項に定めるもののほか、貸与に関する必要な事項は、秋田地域留学生等交流推進会議運営委員会委員長が別に定めることができる。

### 附 則

1. この要項は、平成13年11月28日から実施する。
2. 秋田地域留学生等交流推進会議宿舎予約金貸与制度実施要項及び秋田地域留学生等交流推進会議外国人留学生緊急資金貸付制度実施要項は廃止する。

### 附 則

この要項は、平成17年12月15日から実施し、平成17年4月1日から適用する。

### 附 則

この要項は、平成19年4月1日から実施する。

### 附 則

この要項は、平成22年12月17日から実施する。

### 附 則

この要項は、平成24年12月14日から実施し、平成24年4月1日から適用する。

(別紙様式1)

#### 秋田地域留学生等交流推進会議貸与制度 貸付金申請書

申請金額・事由 1. 予約金 2. 資金 円	
返済予定期間	平成 年 月 日～平成 年 月 日
返済方法	一括返済 円 × 1回 分割返済 円 × 回 円 × 1回
指導教員等の意見 (所属学部、研究科等) (職名・氏名)	◎
秋田地域留学生等交流推進会議貸与制度実施要項により、貸付を受けたので申請いたします。 平成 年 月 日 秋田地域留学生等交流推進会議議長 殿 申請者 (所属大学等、学部、研究科等) ※学年も記入してください。 (氏名) ◎	

(別紙様式2)

#### 借 用 証 書

借用金額	金 円
上記金額を秋田地域留学生等交流推進会議貸与制度による貸付金として、借用しました。 については、秋田地域留学生等交流推進会議貸与制度実施要項に従い、下記のとおり滞りなく返済いたします。	
記	
返済予定期間	平成 年 月 日～平成 年 月 日
返済方法	一括返済 円 × 1回 分割返済 円 × 回 円 × 1回
平成 年 月 日 秋田地域留学生等交流推進会議議長 殿 借受人 (所属大学等、学部、研究科等) ※学年も記入してください。 (氏名) ◎	

(別紙様式3)

#### 秋田地域留学生等交流推進会議貸与制度貸付金 返済猶予申請書

猶予申請事由	
返済猶予金額	円
返済猶予期間	平成 年 月 日～平成 年 月 日
指導教員等の意見 (所属学部、研究科等) (職名・氏名)	◎
秋田地域留学生等交流推進会議貸与制度実施要項により、貸付金の返済を猶予していただきたいので申請いたします。 平成 年 月 日 秋田地域留学生等交流推進会議議長 殿 申請者 (所属大学等、学部、研究科等) ※学年も記入してください。 (氏名) ◎	



## ■■■ 推進会議へのご意見や情報提供について ■■■

本推進会議は、秋田県内における留学生の受け入れや、交流活動を含めた国際交流の推進を図るために組織されています。その活動状況は、毎年発行する本誌「あきた留学生交流」(毎年2月下旬発行)を通して関係の皆さまにお伝えしております。お読みいただいてのご感想や本推進会議に対するご意見がございましたら、事務局までお寄せください。

また、留学生をはじめとする外国人の皆さんやそのご家族の方々は、地域の皆さまからのいろいろな情報の提供を望んでいます。国際交流に関するイベントの実施、その他日常生活に関するささやかな情報でも結構ですので、事務局までお寄せくださるよう協力願います。



「第三の故郷を見つける農家民泊2015」  
では仙北市西木町の農家のみなさんと交流を深めた。

## あきた留学生交流 第28号

(2016.2発行)

編集・発行 秋田地域留学生等交流推進会議事務局  
(秋田大学国際課)

〒010-8502 秋田市手形学園町1番1号  
TEL(018)889-2856 FAX(018)889-3012  
E-mail kokusai@jimu.akita-u.ac.jp